

134 鶏コクシジウム病

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD     A["(1) 疫学調査"] --&gt; B["(4) 糞便検査"]     C["(2) 臨床検査"] --&gt; D["(3) 剖検"]     C -- "(死亡鶏、とう汰鶏、鑑定殺鶏)" --&gt; D     D -.- "(病変部粘膜)" -.-&gt; E["(5) 簡易原虫検査"]     B --&gt; B1["(+)" ]     B --&gt; B2["(-)" ]     E --&gt; E1["(+)" ]     E --&gt; E2["(-)" ]     D --&gt; F["(6) 病理組織検査"]     F --&gt; F1["(+)" ]     F --&gt; F2["(-)" ]     B1 --&gt; G1["(+)" ]     B2 --&gt; G2["(-)" ]     E1 --&gt; G3["(+)" ]     E2 --&gt; G4["(-)" ]     F1 --&gt; G5["(+)" ]     F2 --&gt; G6["(-)" ]     </pre>
病性鑑定施設	<p>(6) 病理組織検査</p> <p>(+) (-)</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に糞便検査、場合により簡易原虫検査の結果により本病とする。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 111 家きんサルモネラ感染症 ② 128 クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(旧 鶏壊死性腸炎)  
 ③ 135 ヒストモナス病 ④ 鶏回虫症 ⑤ 133 鶏アスペルギルス症 ⑥ 117 伝染性ファブリキウス嚢病

○ 病原体: *Eimeria tenella*、*E. necatrix*、*E. acervulina*、*E. maxima*

(1) 疫学調査

- ① 幼若ビナに好発  
 ② 過去の発生の有無とその後の消毒方法に関して発生  
 ③ 死亡率が高い(*E. tenella*、*E. necatrix*)。

(3) 剖 検

表参照

(4) 糞便検査

オーシストの検出

(2) 臨床検査

- ① 貧血、鶏冠の退色および萎縮  
 ② 元気消失  
 ③ 血便(*E. tenella*、*E. necatrix*)、下痢便、肉様便(*E. acervulina*)

(5) 簡易原虫検査

病変部粘膜の塗抹ギムザ染色標本または生鮮標本で原虫を検出

(6) 病理組織検査

表参照

表 1 腸管壁での寄生部位と病像 I

		寄生部位			
		粘膜上皮層	粘膜固有層	腸陰窩 (リーベルキューン腺)	宿主細胞
種	<i>E. tenella</i>	○	○	○	粘膜細胞およびその核はきわめて大型になる。
	<i>E. necatrix</i>				
類	<i>E. acervulina</i>	○			著変なし。
	<i>E. maxima</i>	○	○		宿主細胞の核はガメトサイトを宿した時のみ大型化する。

○印は寄生部位

表 2 腸管壁での寄生部位と病像 II

種 類	<i>E. tenella</i>	<i>E. necatrix</i>	<i>E. acervulina</i>	<i>E. maxima</i>
主な寄生部位	盲 腸	小腸中部 盲 腸	小腸上部	小腸中部
病 変	盲腸出血 盲腸短縮、肥厚	小腸出血斑点 小腸肥厚膨大 粘液多	小腸微細破線状白点	小腸肥厚 白色化 粘液多い。
病 原 性	++++	++++	+	++